

はとの子だより

No. 6 令和7年12月23日（火）発行

学校教育目標 **自律** **のびのび** **きびきび** **わくわく**

素朴な問いをもつ習慣を ～理科学研究発表から～

昆虫はどのような足の運び方をするのか。それは虫の種類によって異なるのか。そんな問いから始まった5年の向井考さんの理科学研究発表は、残念ながら発表会が中止になってしまったことから、日の目を見る機会を逸しておりました。しかしながら、その着眼点の面白さと実験・観察の手法の的確さ、多角的・多面的な考察など、見習うべき点が多いことから、是非紹介したいと常々思っていました。

交互三脚歩行と名付けた昆虫の歩き方が、どの程度の一般性があるのか、そして、速歩・遅足のときで違いが生じるのかなど、言われてみればよく考えたことがなかったけれど興味深い問題に、地道に研究のメスを入れた自由研究です。

全部で61種類の昆虫等をつぶさに観察した結果、多くの昆虫等が交互三脚歩行をしていることが分かったものの、一部例外の昆虫がいることに着眼し、その様子と理由の考察に着手しました。例えば一部のチョウは、花や葉につかまることが多い、クモはバランス



の悪い細い糸の上を歩くことが多いなど、その生活実態や習性から、後ろ二脚や四脚を活用した歩行の仕方をしています。他にも、水上での移動が多い、草むらをジャンプする機会がある、足の数が多い、体が重いなど、実に様々な特性を歩き方との因果関係に結び付けて考察していました。

世界は、当たり前だと思っていたけれど、よく考えてみるとその理由がよく分かっていない事象に満ちています。

先日も、フィギュアスケートの選手権を観ていて「回転技ってなぜすべて反時計回りなんだろう。時計回りにすると減点されたりするのだろうか」という問いが浮かんできました。興味がある方は是非調べてみてください。

冬休みは、あっという間の短い期間ですが、きっと何気ない、けれど奥が深い問いを見つける機会になるはずです。

向井考さんの研究発表資料の一部

それって本当に失敗？ ～公開研究協議会の子どもたち～



好きするデーの様子(通信の内容と直接の関係はありません)

5年生は、総合的な学習の時間に「好きするデー」という日を設けて、「真剣に遊んで」いました。内容や必要な物品の準備、場所の確保などについて、事前に関係各所に問い合わせに来る子どもたちが後を絶ちません。「その日時だと、たぶんバッティングしてるよなあ」「それ、他のグループでやりたいことと被ってるけれど、事前に連絡し合ってるのかなあ」など、対応しているうちに気になってくることは多々ありました。しかし、こちらからは言いません。それこそが、子どもたちが解決

しなければならない問題だからです。

好きなことをする、というただそれだけのことなのに、それがいかに難しいか、ということを感じた学習機会になったのではないのでしょうか。

公開研究協議会の日も、5年生は「好きするデー」で、自分たちのしたいことを極めようとしていました。様子を見回っていると、楽しそうに活動している子どもたちの中で、ひときわ目を引くグループがありました。

なにやら難しい表情で、ずっと意見交換をしています。授業時間の終わり頃までその議論は続いていました。終わってから、何を話し合っていたのか尋ねると、暗い表情で「活動の目的に食い違いがあって、なかなか折り合えず話し合っていた」とのこと。完全に「失敗モード」の雰囲気です。

「へえ、それはすごいね。よかったじゃない」というと、やや気色ばんで「え？どこがよかったんですか？」と詰め寄られました。「それだけ真剣にしたいことがあったっていうことでしょう」と答えましたが、納得していない様子でした。

意見が食い違ったり、思うような結果が出なかったりすると、誰でもつい「失敗した」と考えがちになることがあります。でも、意見が対立するということは、それだけお互いにそのことに対する強いこだわりや切実感があるということです。そのこと自体が尊いのであって、対立などは目的遂行のためのちょっとしたスパイスでしょう。スパイスがあるからこそ、目的としていることの味わいは際立つものです。

公開研をお手伝いくださった保護者の方から、次のような感想をいただきました。

「いつも子どもが楽しそうに教えてくれる好きするデーという活動に興味がありました。子どもたちの好きな場所で好きなことを、自由に考えさせ、たくさんの気づきを拾い上げ、学びにつなげている授業に衝撃を受け、感動しました。子どもたちの可能性を信じ、見守る先生たちの姿勢が素晴らしかったですし、そのような考えを持った先生たちのもとで学ばせてもらえてありがたさを改めて感じました。学力以上に大事な、生きる力をつける、そんな学びだと感じました。自分自身の子育てでも、子どもの可能性を信じ、しっかり見守ってあげようと気付かされました。附属小学校に入学させて、よかったなあと思える授業でした。」